



果樹特報

No.5

平成 28 年 5 月 27 日
J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

結実後（5 月）の気温帯も平年を大きく上回り果実肥大等も進んでいる状況です。4 月中下旬の多雨等で黒星病の感染広がり、5 月中旬から葉病斑が確認されました。6 月上旬まで果実感染が続きますので、引き続き一定の間隔で薬剤散布を進めてください。また、今後は高温多湿状態となり、主要病害の感染拡大に最適になります。生産量に大きく影響する炭そ病・輪紋病の果実感染防止のため、梅雨明けまでは、連続した降雨・曇天前の予防散布を徹底してください。

りんご

6 月上旬の薬剤散布（前回より 15 日後）

◆ 散布日：6 月 日

◆ 散布量： リットル

散布時期： 6 月 1 日～5 日 *注意事項①参照

散布薬剤： 水	100	リットル	
展着剤	10	ml	
アントラコール顆粒水和剤	200	g	(45 日前、4 回)
劇剤 スプラサイド水和剤	66	g	(30 日前、2 回) *注意事項②参照
スイカル	100	g	(カルシウム剤)

対象病害虫：黒星病・黒点病・斑点落葉病・褐斑病・炭疽病

アブラムシ類・シンクイムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類・カメムシ類

10 アール当り散布量： 600 リットル

【黒星病・カイガラムシ類対策】 *必ずお読みください。

➡ 黒星病対策

黒星病の葉病斑等が散見される場合は、スコア顆粒水和剤 3,000 倍（14 日前、3 回）を加用する。尚、スコア顆粒水和剤は予約価格で対応します。

➡ カイガラムシ類対策

ナシマルカイガラ等の発生園は、アプロードフロアブル 1000 倍（30 日前、2 回）を加用する。

【注意事項】 *必ずお読みください。

- ① 上記の散布時期は目安です。気象条件や各園の病害虫発生状況等を考慮して散布時期を決定してください。また、6 月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避ける。
- ② スプラサイド水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ③ シンクイムシ類・ハマキムシ類の多い地帯はコンフューザー R (100 本/10a) を 6 月初旬に設置する。
- ④ カルシウム剤は、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果がある。また、スイカルに代えて、ストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。ストピットⅡは、カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。
- ⑤ 散布時期・使用方法等不明な点は、園芸技術課担当までお問い合わせください。（営農センター TEL 23-3933 まで）

◆ 次回（6 月中旬）薬剤散布予定：6/15～20

梅雨入り後の褐斑病・炭そ病やシンクイムシ類・ハマキムシ類対象の薬剤散布です。

◆ りんご栽培管理情報は裏面をご覧ください。

◆ 仕上げ摘果で残す果実

- ① 花そう葉が多い果実（光合成が活発となる）
- ② 果梗が長く太い果実（落果しにくい、傷がつきにくい）
- ③ 縦長で肩がはっているもの（大玉になる素質ある）
- ④ 果台が1~2 cmの果実（ふじの場合） *右図参照
- ⑤ 果台枝が15cm以下の果実（ふじの場合） *右図参照
- ⑥ 着果位置が良好な果実（収穫前の日当たりが良い果実）



◆ りんご 5月に目立った病害・生理障害

① 黒星病（葉病斑）



春の重要病害黒星病。5月中旬から葉病斑が確認された。葉に褐色～薄茶色上の小斑点が発生する。長い時間降雨があると感染が拡大する。感染は6月上旬まで続くので引き続き防除を徹底する。本年は4月中旬と4月末の多雨により感染が拡大した模様。被害葉が多い園はEBI剤等（スコア顆粒水和剤等）を6月上旬定期散布に加用する。

② うどんこ病（葉・果実）



4~5月高温乾燥条件下で発生が多いうどんこ病。本年は品種を問わず多発傾向。被害部は、葉や果実が白い粉に覆われるのが特徴。被害葉等を見つけ次第、早めに除去する。放置しておくと次年度の感染源になるので注意する。尚
越冬病源は発芽が10日位遅れるので、春先の早い時期に容易に見つけることができる。

③ 腐らん病



大敵腐らん病は本年特に早期多発傾向、市内全域で被害程度も大きい状況。近年は極細い枝にも発生が目立つ。（左写真）
腐らん病は、他の病害と違い、気温が低くても雨等により感染が広がる特異性を持つ。最大の感染期は梅雨であるので、それまでに病斑部の削り取りや抑制処理を進める。

④ ふじの果台が異常に長いもの（青玉・光玉除去対策）



例年散見されるふじの果台が異常に長いもの。（理想は2cm以内で止まること）
秋季の高温により二次伸長芽に多いのが特徴。尚、この部分に結実した果実は、当初は大玉であるが、後に青玉・光玉になる可能性が高い。仕上げ摘果までには除去したい。詳しくは6月中旬の講習会で説明します。